

Yukio Horio

堀尾幸男

舞台美術の記憶

Memories of Scenography I

50

ANNIVERSARY
PARCO劇場



I

PARCO

2023年

劇場 7月

12日-19日

PARCO THEATER

12th-19th July 2023

Yukio Horio 2023.06.01

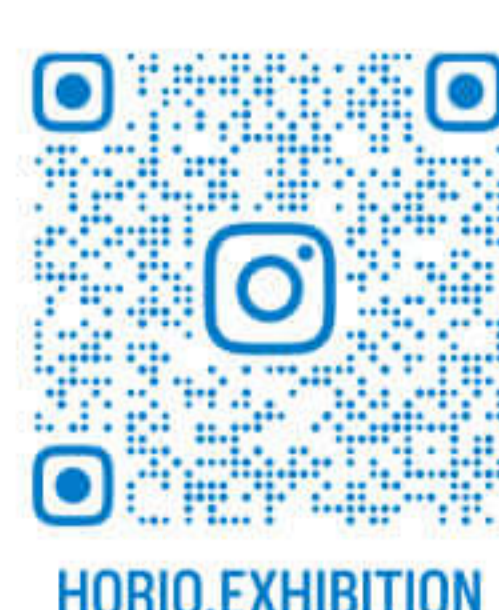
1969.05.01

Yukio Horio Memories of Scenography I

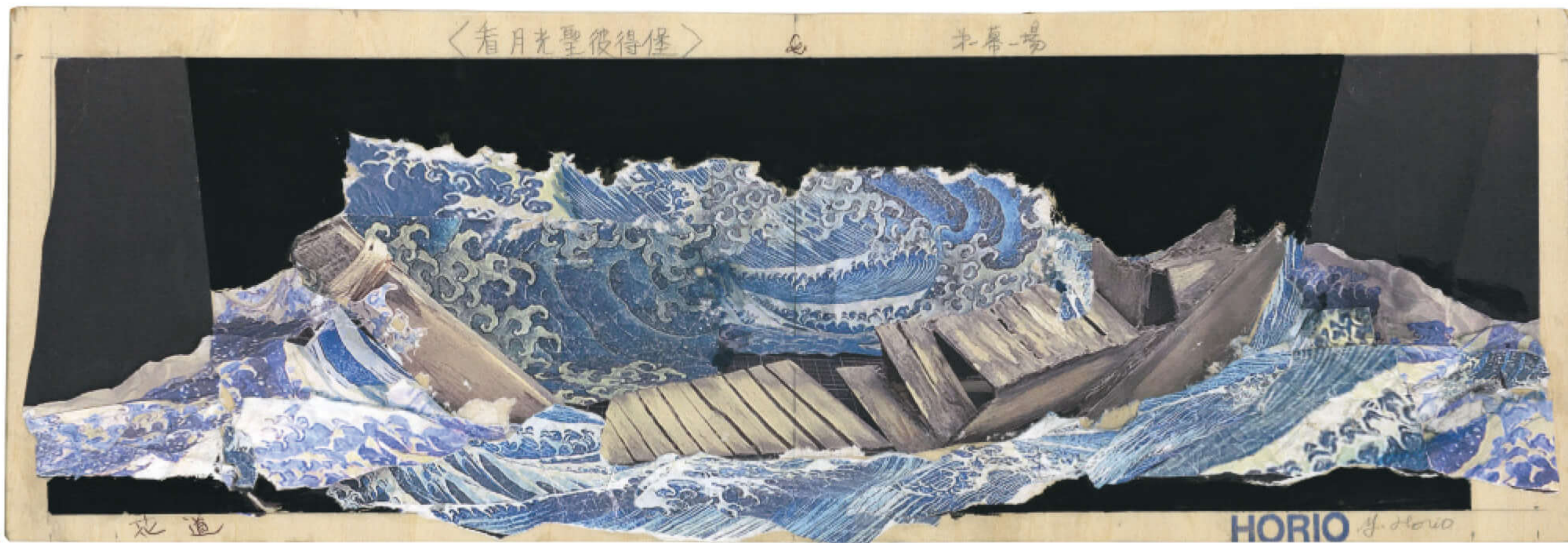
2023年7月12日(水) - 19日(水) 11:00 - 20:00 ※7月19日(水)は17:00まで PARCO劇場 (渋谷PARCO 8F)

堀尾幸男 舞台美術の記憶 I

入場無料



HORIO.EXHIBITION



- ①「三谷かぶき 月光露針路日本 風雲児たち」エレベーション(2019)
- ②「廣作・桜の森の満開の下」エレベーション(2001)
- ③「滝沢家の内乱:一月十九日、八犬伝、お路に口授致し、下書なさしむ」色道具帳(1994)

舞台美術家・堀尾幸男は、三谷幸喜、野田秀樹、市川猿之助によるスーパー歌舞伎など、第一線で活躍する作家や俳優の作品を数多く手がけ、読売演劇大賞初のスタッフによるグランプリを受賞したことで知られていますが、堀尾が創作する舞台美術が、どのような歴史的文脈、思考過程を経て成り立っているかについては、あまり知られていないでしょう。

堀尾は、革新性や同時代性を追求する現代的な演劇に取り組む一方で、オペラや歌舞伎といった伝統的な舞台芸術が築き上げた様式にも高い関心を寄せるなど、西洋と日本、革新と伝統、抽象と具象といった舞台芸術がはらむ二項対立のあいだで舞台空間を構想します。紙や布、板の見立てによってのみ描かれる空間の変化、遠近法に基づく傾斜舞台から生じる役者の存在感と日本的な平面性の行き来、“マンガを歌舞伎に”“コンサートホールでオペラを”といったメディアの横断等の試みは、既成概念を揺さぶることでその本質を探ろうとする顕著な例といえるでしょう。

本展覧会は、PARCO劇場で上演された三谷幸喜作品を中心とした35演目(1998-2023)における堀尾の仕事、舞台美術模型やデザイン画、作家本人による舞台美術考察を通じて紹介します。舞台空間として成立する以前の、本公演では見ることのできない堀尾の知られざる美術表現をご覧ください。

堀尾幸男 ほりお・ゆきお

舞台美術家。1946年生まれ。広島県出身。武蔵野美術大学在学中に旧西ドイツ、ベルリン芸術大学舞台美術科に留学。1981年より小道具などの造形美術の制作を手がける。1983年オペラ「ルチア」「マリア・ストゥアルダ」の美術を担当。以来、様々な舞台美術デザインに携わる。近年の主な作品に、三谷幸喜「笑の大学」、野田秀樹「逆鱗」「廣作 桜の森の満開の下」「フェイスピア」「[Q]:A Night At The Kabuki」、森新太郎「エドワードII世」「ミュージカル「パンズ・ヴィジット 迷子の警察音楽隊」」、劇団☆新感線「罫城の七人」シリーズ、行定勲「リボルバー〜誰が【ゴッホ】を撃ち抜いたんだ?〜」、市川猿之助「スーパー歌舞伎II「ワンピース」」、「志の輔らくご」ほか。第24回読売演劇大賞グランプリ・最優秀スタッフ賞など受賞多数。

同時開催上映会

EPAD Re LIVE THEATER

EPADは、2020年より新旧含めた舞台公演記録映像の収集とその利活用のサポートを行ってきました。このたび、過去名作舞台を舞台上の巨大スクリーンに投影する上映会を開催します。 <https://epad.terrada.co.jp>

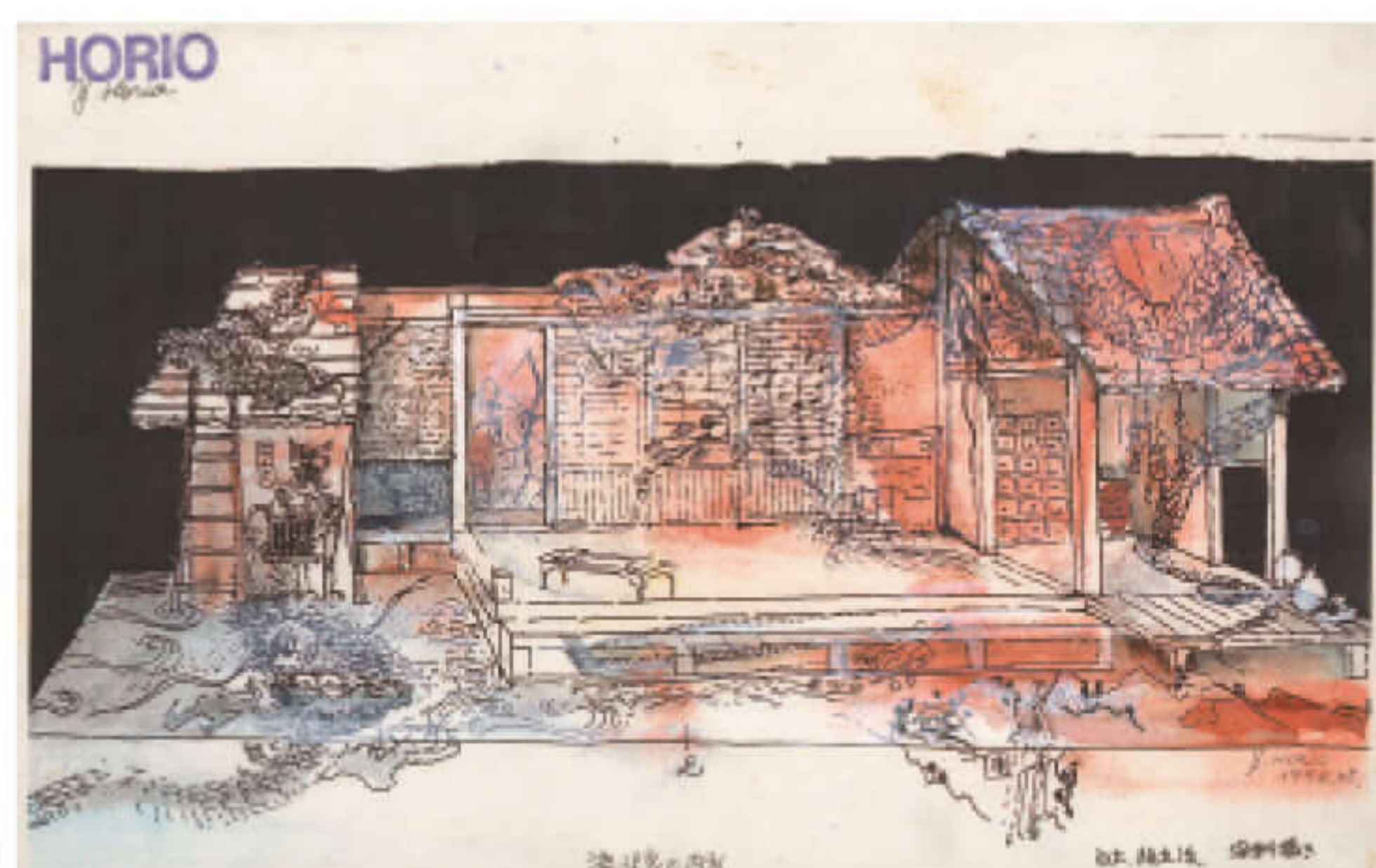
関連企画/トークイベント開催決定!

7月16日(日) [出演]三谷幸喜、堀尾幸男

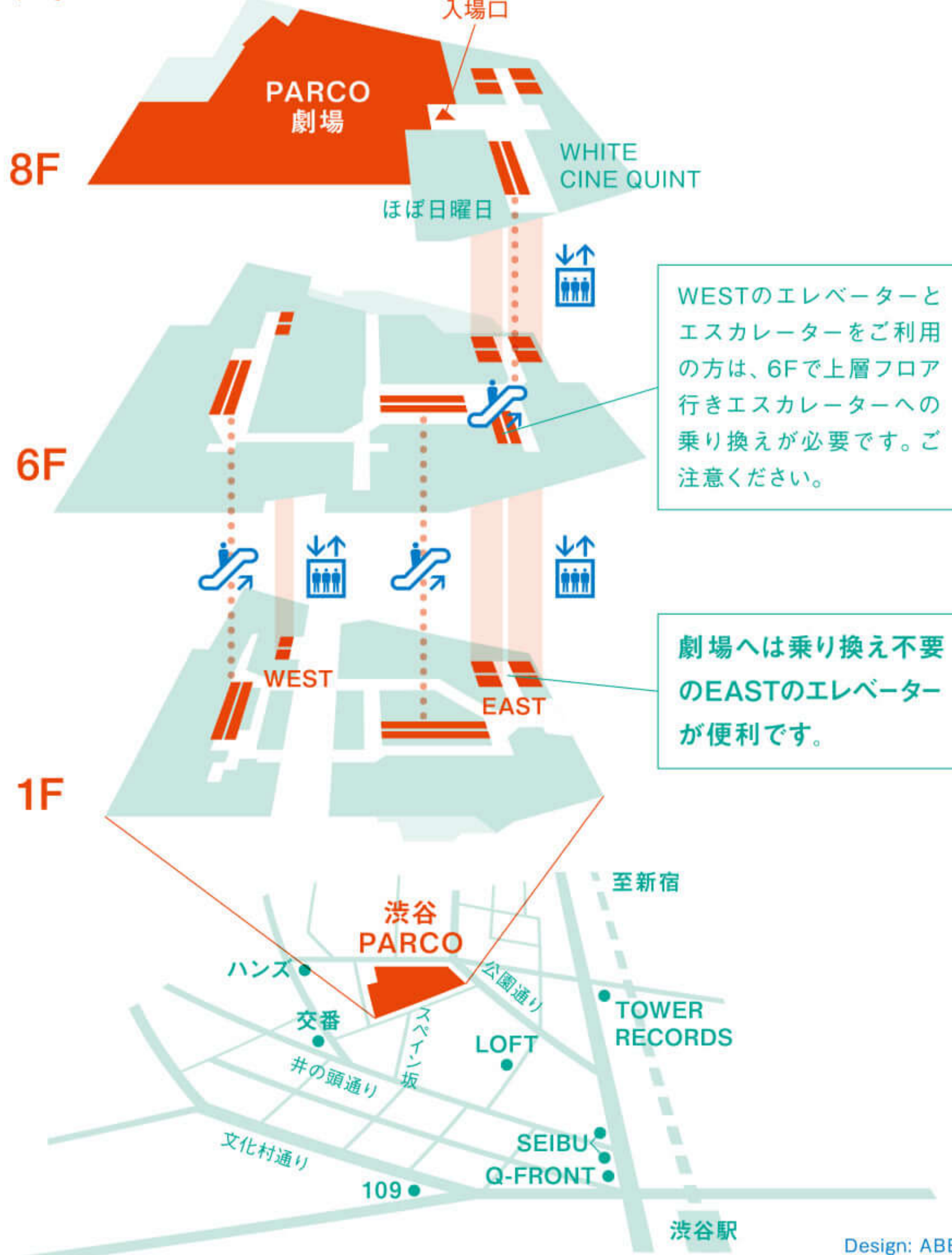
主催: 一般社団法人EPAD 問い合わせ先: info@epad.terrada.co.jp

※詳細は、決まり次第EPADポータルサイト、公式Twitterなどでお知らせします。
※上映会、トークイベントのお問い合わせは一般社団法人EPADまでご連絡ください。

主催:「堀尾幸男 舞台美術の記憶I」事務局 後援:HORIO工房 協力:株式会社パルコ
問い合わせ先: horio.exhibition@gmail.com



アクセス



WESTのエレベーターとエスカレーターをご利用の方は、6Fで上層フロア行きエスカレーターへの乗り換えが必要です。ご注意ください。

劇場へは乗り換え不要のEASTのエレベーターが便利です。

Design: ABEKINO DESIGN+Willy ALBOUY